

使用材料・強度

使用材料

コンクリート： $F_c=21 \text{ N/mm}^2$

スランプ●捨てコン、耐圧、土間 18 cm、15 cm (構造設計特記仕様参照)
●立上り18 cm

鉄筋： D10~D16:SD295 A

(評定番号:BCJ評定-L00037-04 又は 評定番号:BCJ評定-L00044-03を使う)

立上り鉄筋は全強度鉄筋交差溶接Aタイプを使う。

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

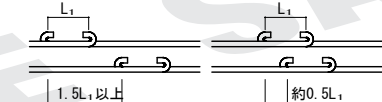
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

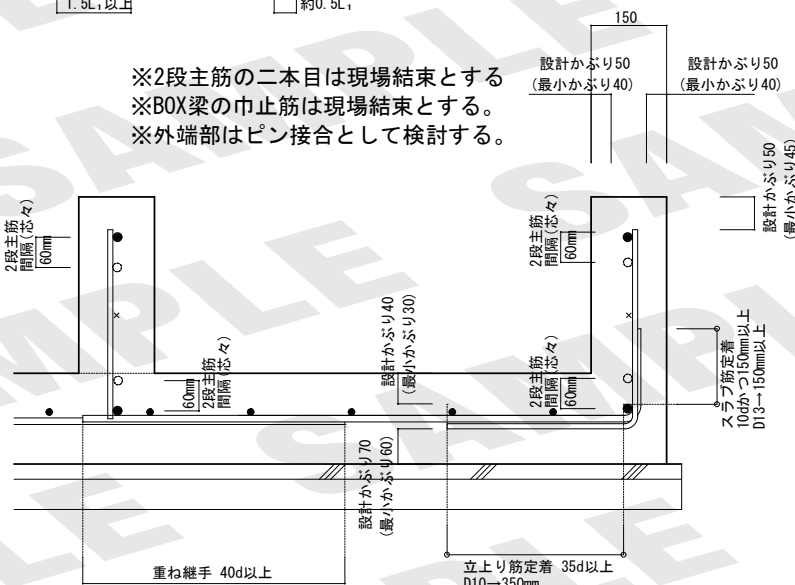
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm^2)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
		一般 (L_2)	下端筋 (L_3) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)



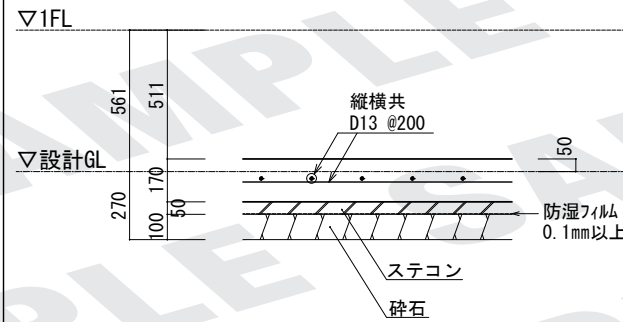
※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。



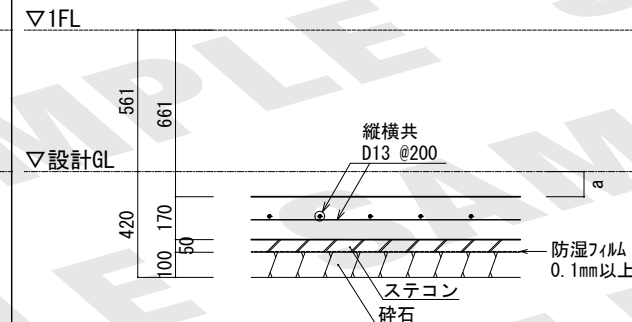
※ 特記なき土間スラブの配筋は5mmワイヤーメッシュ@150とする。

ユニット鉄筋仕様

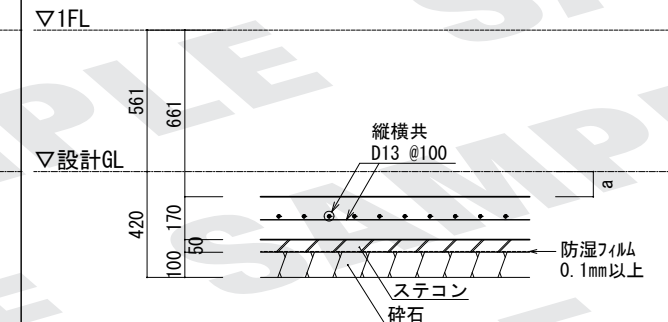
FS1 一般スラブ D13@200



FS4 ガレージスラブ D13@200

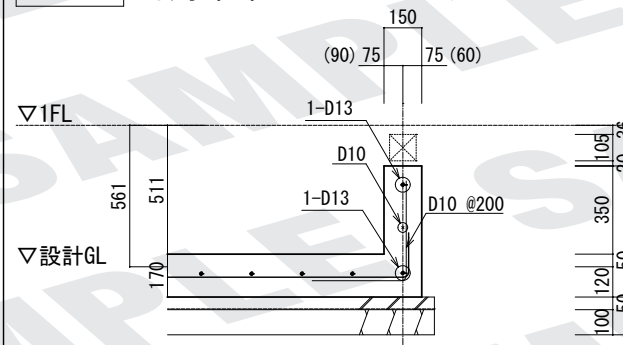


FS6 ガレージスラブ D13@100



※使用する場合は要確認

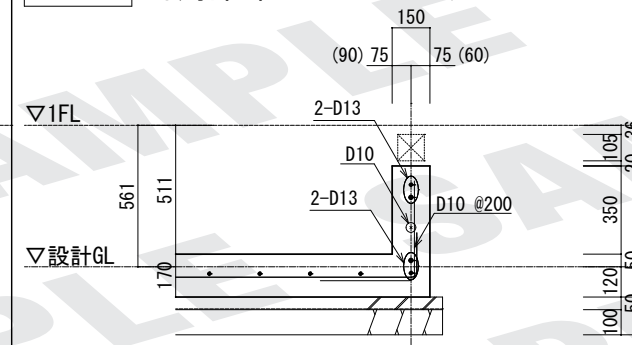
FGu1 外周部 柱ハソ 2275mm以下



※リピアの玄関前の独立壁は、この仕様(べた基礎仕様)とする。
直行部はFGu5Bとする。

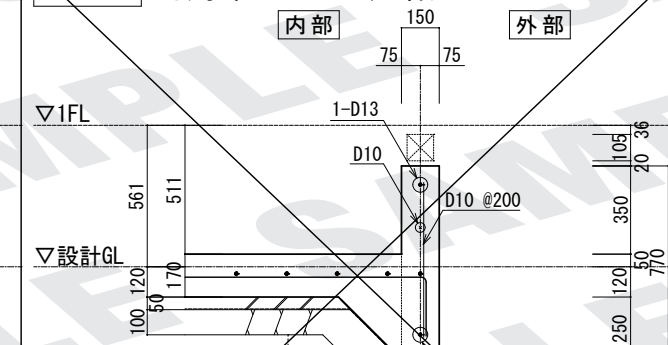
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu1A 外周部 柱ハソ 2275mm超



※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu1B 外周部 FGu5Aの定着用

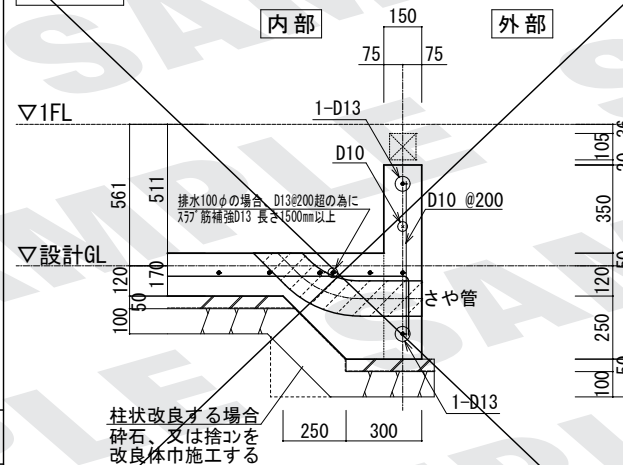


柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※FGu8でb=250の場合、同断面

直行する地中梁の主筋定着用

FGu1C 外周部 排水経路部 さや管固定用



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

外周補強/出隅補強

※基礎の芯振りは伏図を参照

検図担当

意匠設計担当

構造設計担当

年/月/日

工事名称

図面名称

図面番号

縮尺 1/30

標準基礎断面リスト

基礎断面図

S-01

使用材料・強度

使用材料

コンクリート： $F_c=21 \text{ N/mm}^2$

スランプ●捨てコン、耐圧、土間 18 cm、15 cm (構造設計特記仕様参照)

●立上り18 cm

鉄筋： D10~D16:SD295 A

(評定番号:BCJ評定-L00037-04 又は 評定番号:BCJ評定-L00044-03を使う)

立上り鉄筋は全強度鉄筋交差溶接タイプを使う。

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

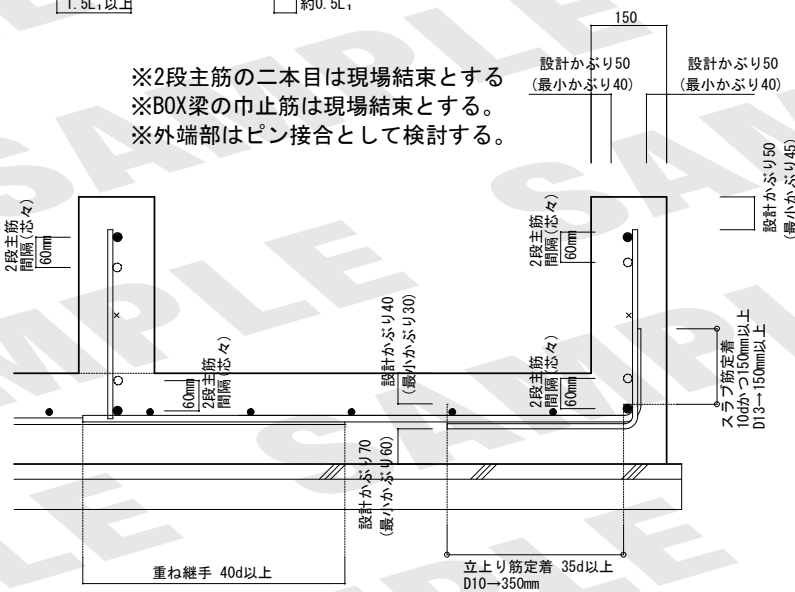
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm^2)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
		一般 (L_2)	下端筋 (L_3) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)



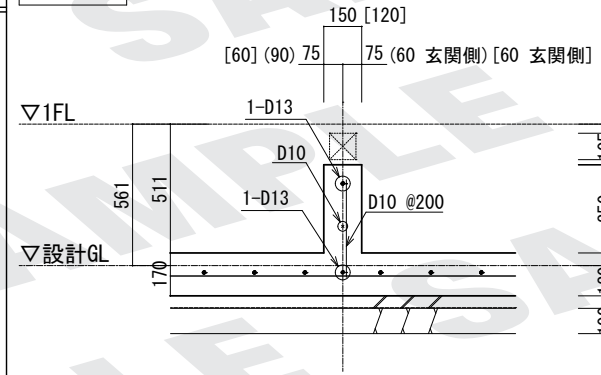
※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。



※ 特記なき土間スラブの配筋は5mmワイヤメッシュ@150とする。

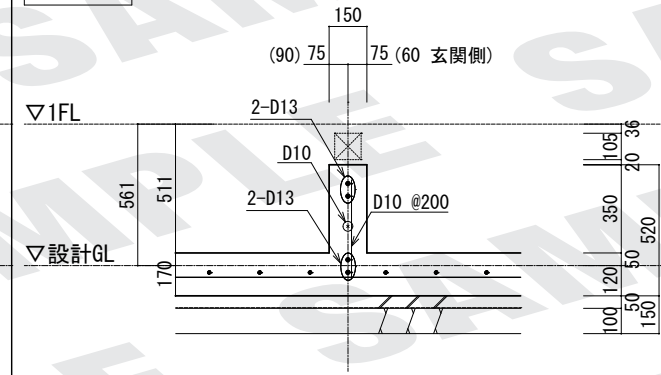
ユニット鉄筋仕様

FGu2 内部 柱ハシ 1365mm以下



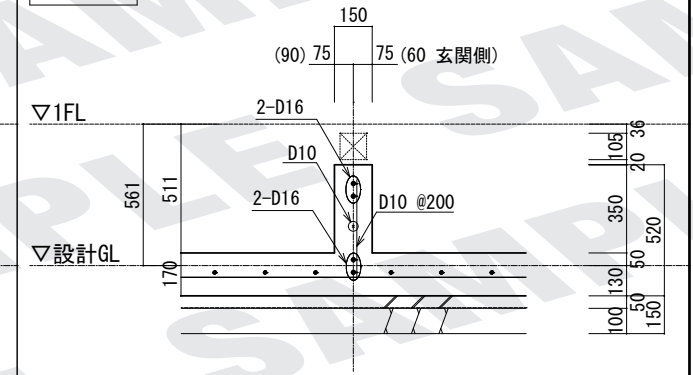
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu2A 内部 柱ハシ 2275mm以下



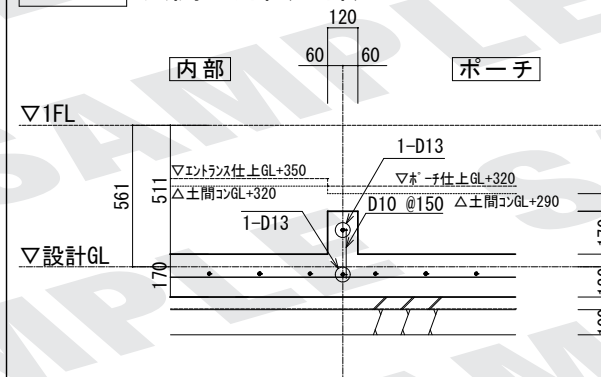
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu2B 内部 柱ハシ 2275mm超



※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu3 玄関ドア部 (内部)

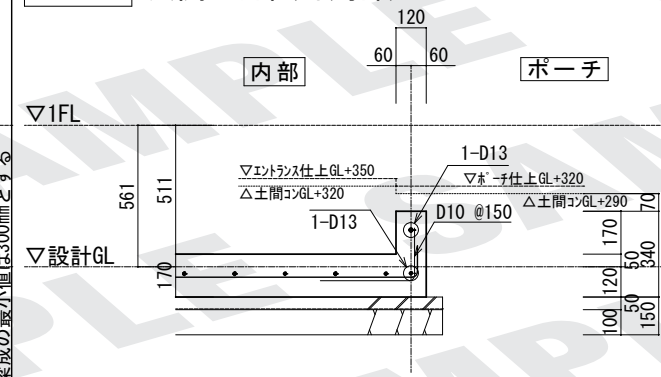


ホーチ仕上GL+290以下の場合には要高さ調整
土間コン-70を基礎梁上端とする

D10のSTの間隔は梁成1/2 かつ 250mm以下

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu4 玄関ドア部 (外周部)

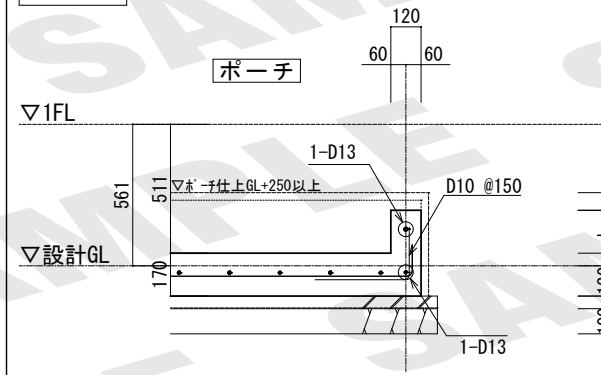


ホーチ仕上GL+290以下の場合には要高さ調整
土間コン-70を基礎梁上端とする

D10のSTの間隔は梁成1/2 かつ 250mm以下

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu5 ホーチ端部

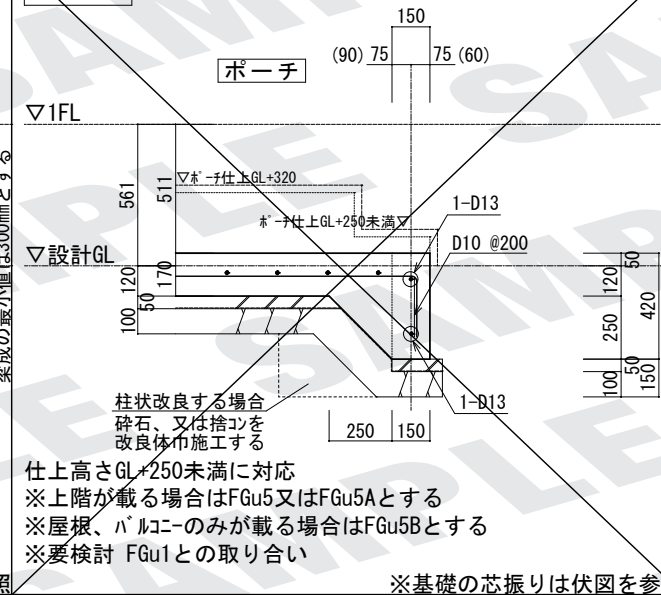


ホーチ仕上高さGL+290の場合にはFGu4と同断面になります
ホーチ仕上高さGL+250以上に対応
ホーチ上-70を基礎梁上端とする

※上階が載る場合はFGu5又はFGu5Aとする
※屋根、バルコニーのみが載る場合はFGu5Bとする
D10のSTの間隔は梁成1/2 かつ 250mm以下

※基礎の芯振りは伏図を参照

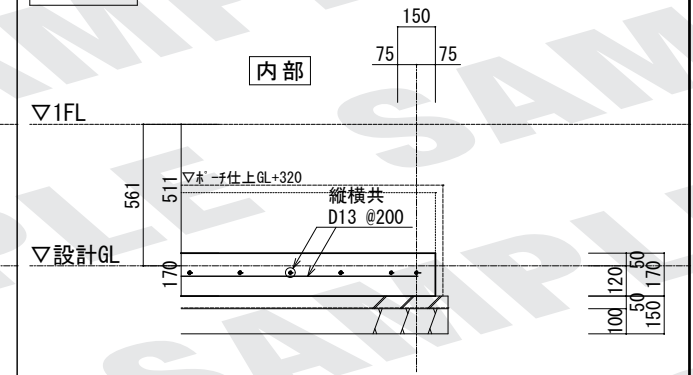
FGu5A ホーチ端部



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体中施工する
仕上高さGL+250未満に対応
※上階が載る場合はFGu5又はFGu5Aとする
※屋根、バルコニーのみが載る場合はFGu5Bとする
※要検討 FG1との取り合い

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu5B ホーチ端部



※上階が載る場合はFGu5又はFGu5Aとする
※屋根、バルコニーのみが載る場合はFGu5Bとする

※基礎の芯振りは伏図を参照

検図担当	意匠設計担当	構造設計担当	年/月/日	工事名称	図面名称	図面番号
				標準基礎断面リスト	基礎断面図	S-02
			縮尺 1/30			

使用材料・強度

使用材料

コンクリート： $F_c=21 \text{ N/mm}^2$

スランプ●捨てコン、耐圧、土間 18 cm、15 cm (構造設計特記仕様参照)

●立上り18 cm

鉄筋： D10~D16:SD295 A

(評定番号:BCJ評定-L00037-04 又は 評定番号:BCJ評定-L00044-03を使う)

立上り鉄筋は全強度鉄筋交差溶接タイプを使う。

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

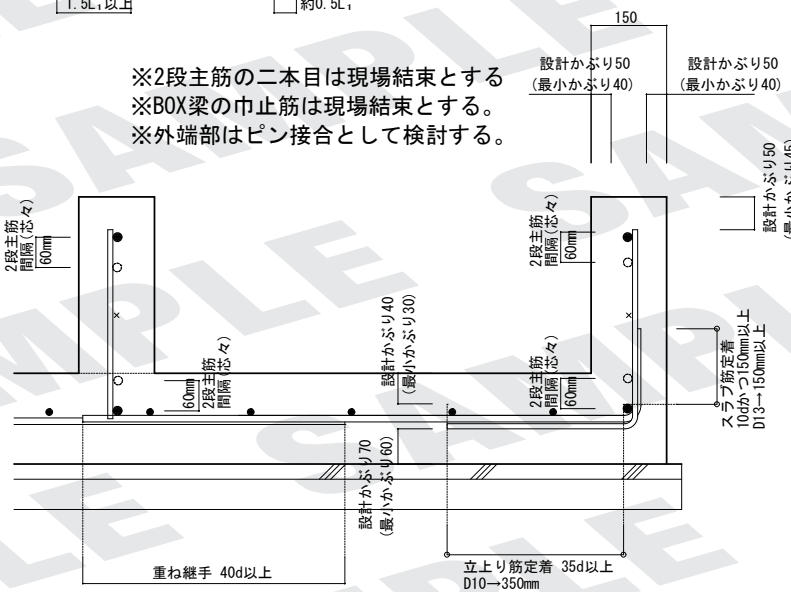
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm^2)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
		一般 (L_2)	下端筋 (L_3) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする (重ね継手(下図のいずれかのようにする))



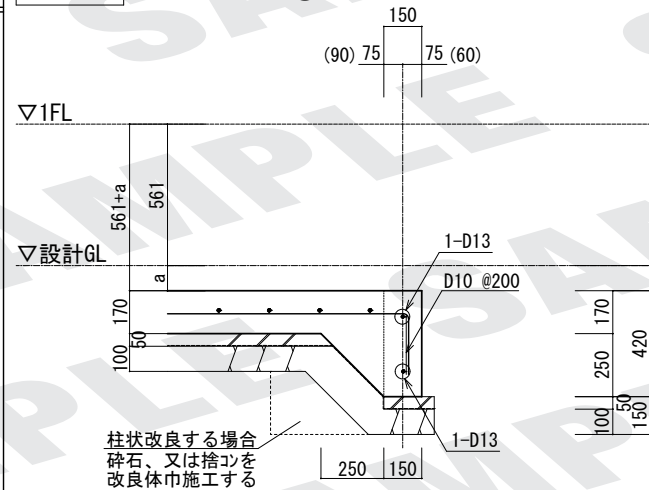
※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。



※ 特記なき土間スラブの配筋は5mmワイヤーメッシュ@150とする。

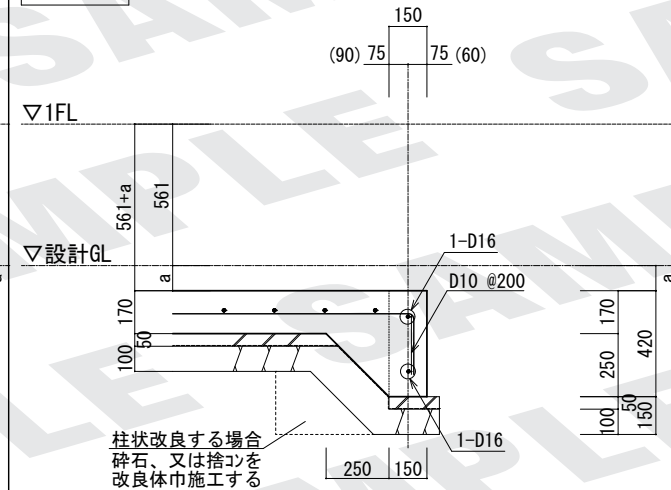
ユニット鉄筋仕様

FGu7 ガレージ 端部① 柱スパン 1820mm以下



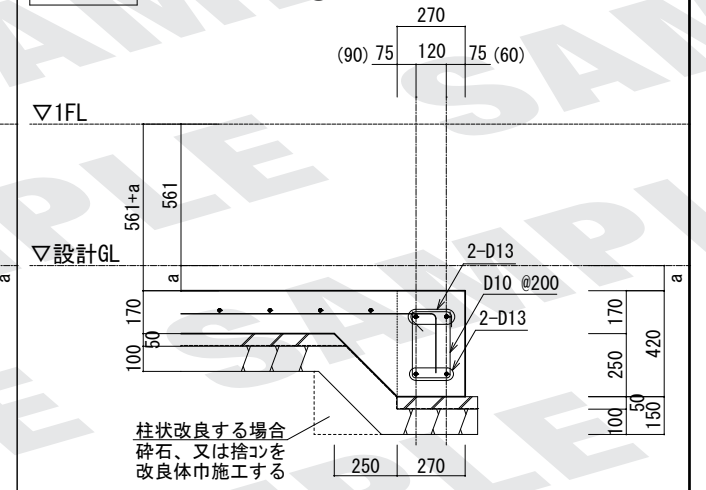
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu7A ガレージ 端部② 柱スパン 2275mm以下



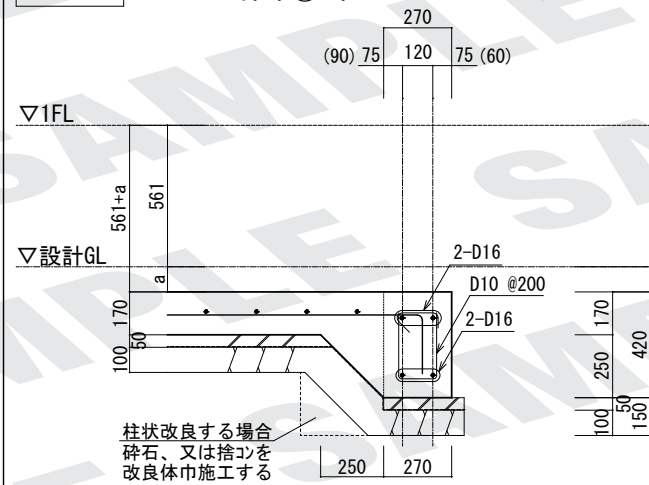
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu7B ガレージ 端部③ 柱スパン 2730mm以下



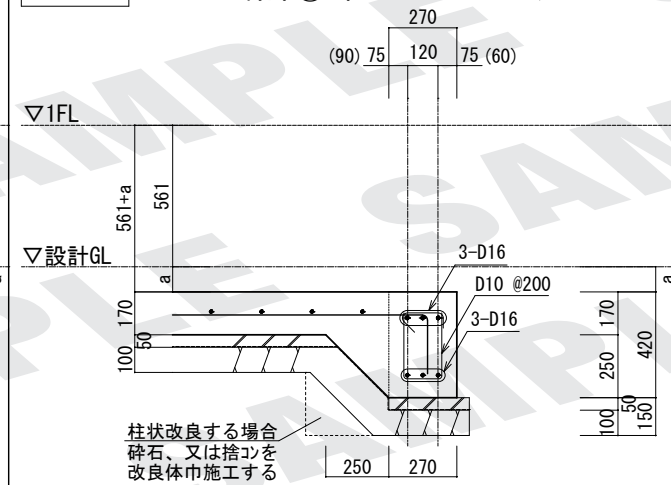
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu7C ガレージ 端部④ 柱スパン 3640mm以下



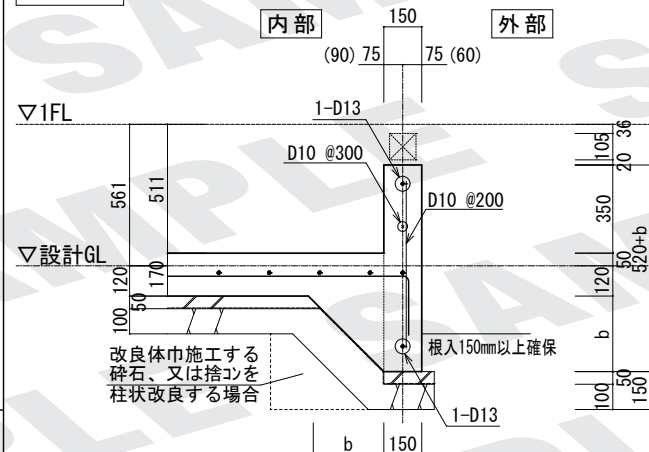
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu7D ガレージ 端部⑤ 柱スパン 3640mm超



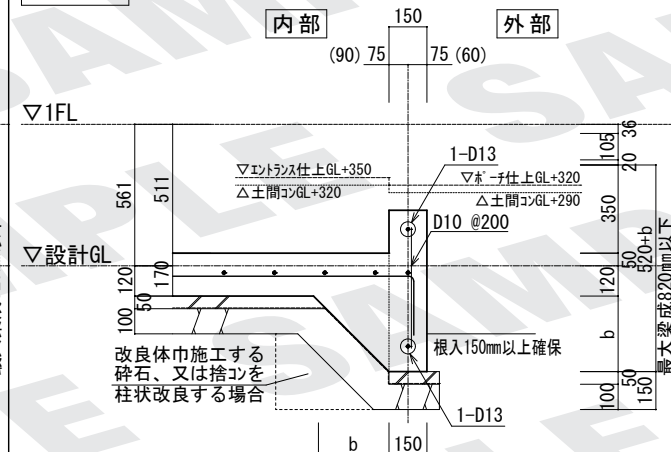
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu8 高基礎(深基礎) b=300以下



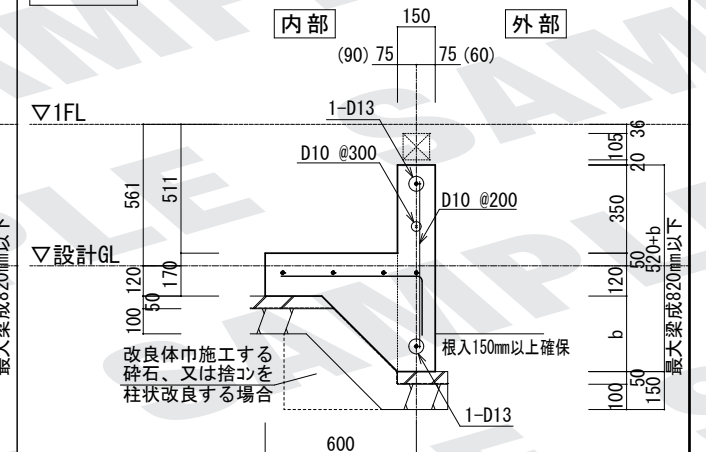
※ハチの省略可能 ※ハチを45° 超に変更可能 ハチ部を十分に締め固めること ※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu8a 高基礎(深基礎) b=300以下



※ハチの省略可能 ※ハチを45° 超に変更可能 ハチ部を十分に締め固めること ※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu8' 高基礎(深基礎) b=300以下



※ハチの省略可能 ※ハチを45° 超に変更可能 ハチ部を十分に締め固めること ※基礎の芯振りは伏図を参照

検図担当	意匠設計担当	構造設計担当	年/月/日	工事名称	図面名称	図面番号
			縮尺 1/30	標準基礎断面リスト	基礎断面図	S-03

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm²

スランプ●捨てコン、耐圧、土間 18 cm、15 cm (構造設計特記仕様参照)
●立上り18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

(評定番号:BCJ評定-L00037-04 又は 評定番号:BCJ評定-L00044-03を使う)

立上り鉄筋は全強度鉄筋交差溶接タイプを使う。

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

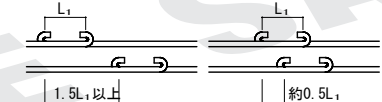
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

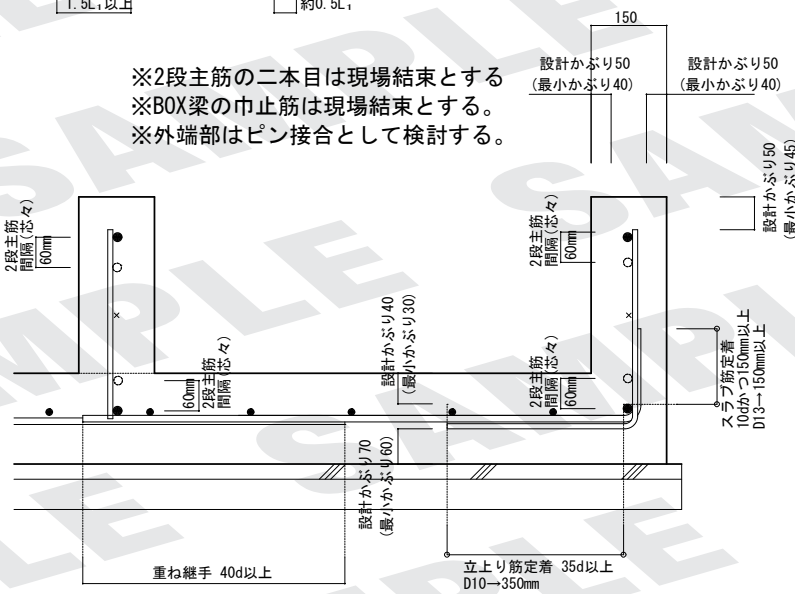
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋(L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)



※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。

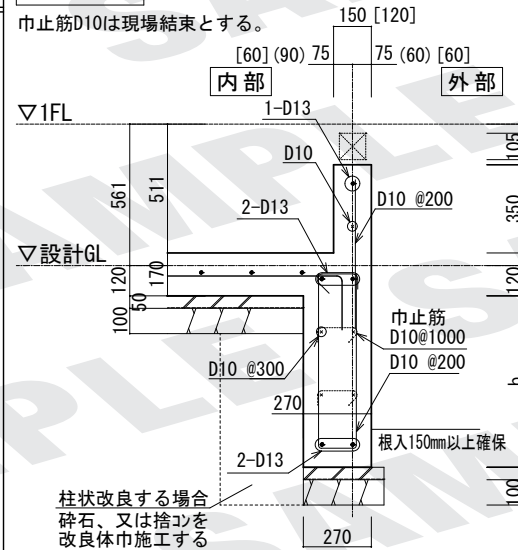


※ 特記なき土間スラブの配筋は5mmワイヤメッシュ@150とする。

ユニット鉄筋仕様

FGu8A 高基礎(深基礎) b=300超 2,000以下

巾止筋D10は現場結束とする。



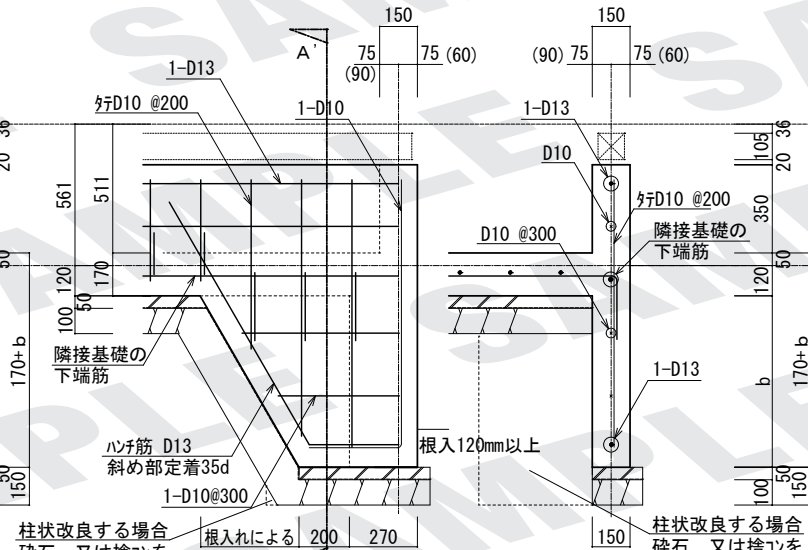
柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※基礎の芯振りは伏図を参照

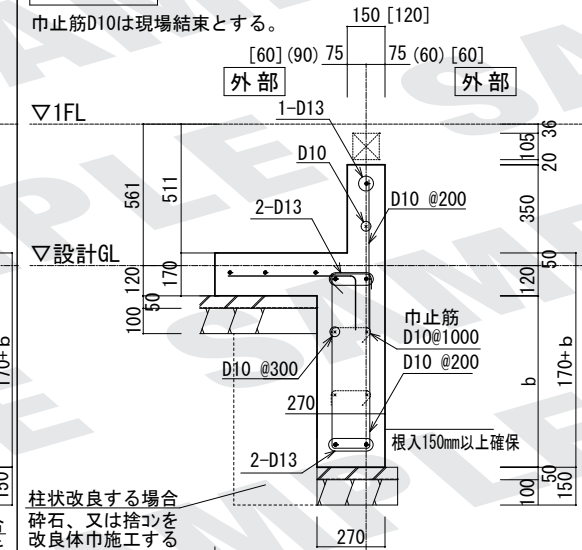
端部側面図

A-A' 断面図



FGu8B 高基礎(深基礎) b=300超 2,000以下

巾止筋D10は現場結束とする。

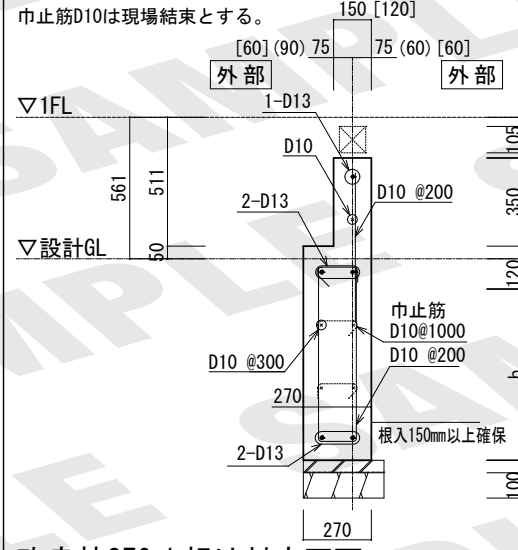


柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu8C 高基礎(深基礎) b=300超 2,000以下

巾止筋D10は現場結束とする。

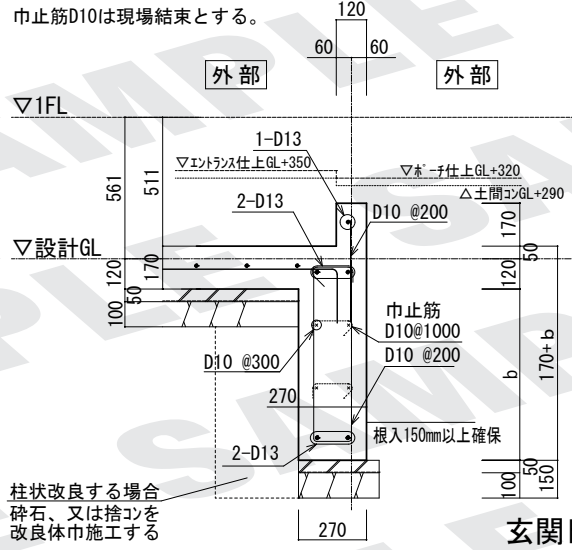


改良杭270φ超は対応不可

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu8D 高基礎(深基礎) b=300超 2,000以下

巾止筋D10は現場結束とする。

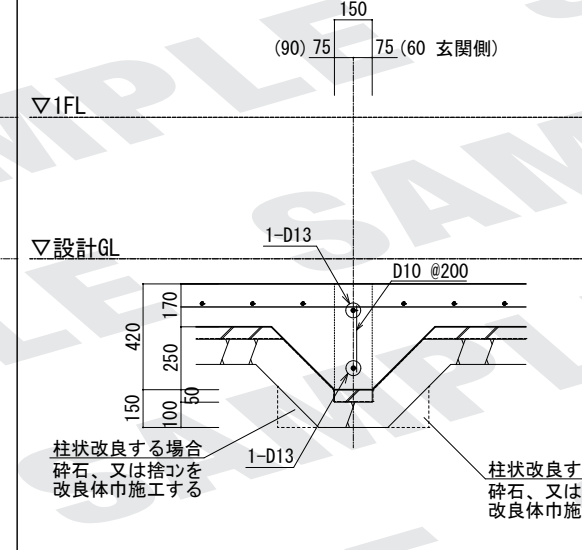


柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

玄関ドア部

※基礎の芯振りは伏図を参照

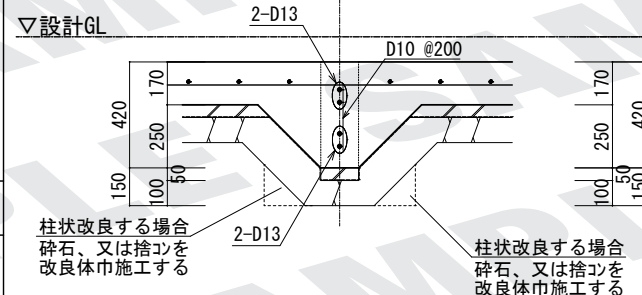
FGu9 土間中通り 柱スパン 1365mm以下



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu9A 土間中通り 1820mm以下

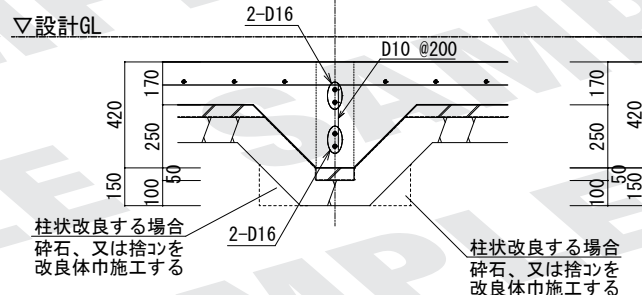
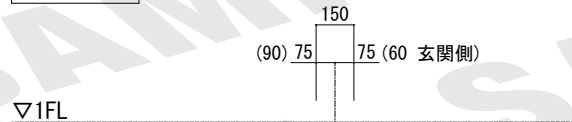


柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu9B 土間中通り 柱スパン 2275mm以下

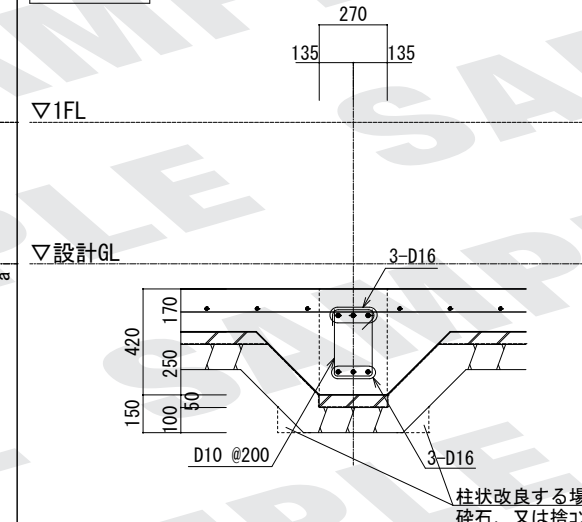


柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu9C ガレージ中通り 柱スパン 2275mm超



柱状改良する場合
砕石、又は捨コンを
改良体巾施工する

※基礎の芯振りは伏図を参照

検図担当

意匠設計担当

構造設計担当

年/月/日

工事名称

図面名称

図面番号

標準基礎断面リスト

基礎断面図

S-04

縮尺 1/30

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm²

スランプ●捨てコン、耐圧、土間 18 cm、15 cm (構造設計特記仕様参照)

●立上り18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

(評定番号:BCJ評定-L00037-04 又は 評定番号:BCJ評定-L00044-03を使う)

立上り鉄筋は全強度鉄筋交差溶接タイプを使う。

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

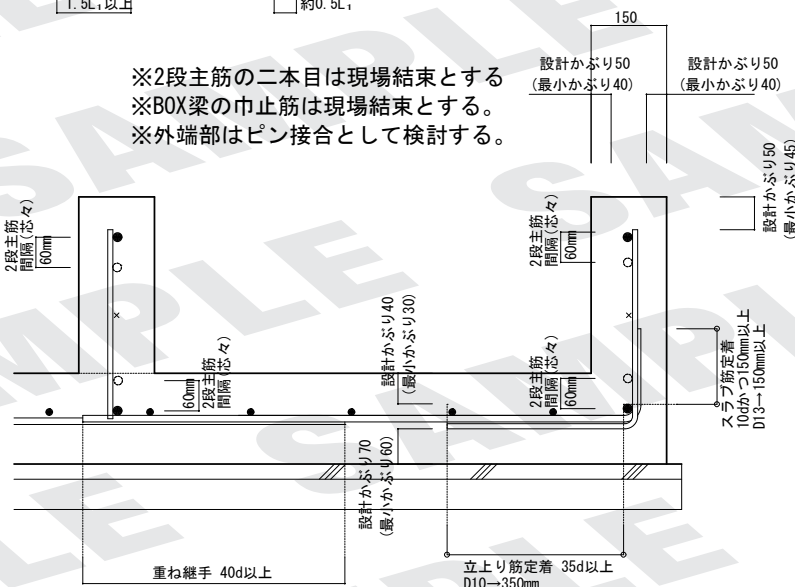
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする (重ね継手(下図のいずれかのようにする))



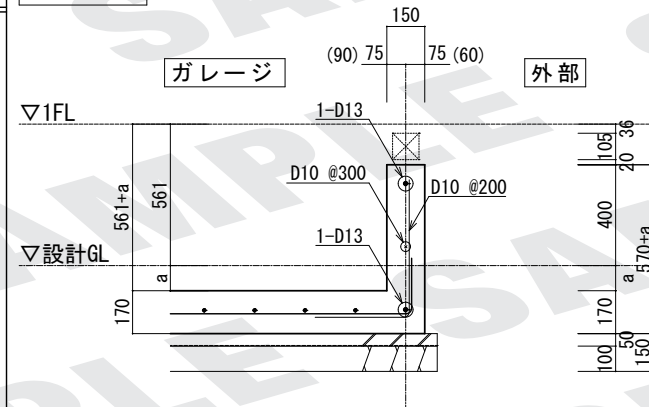
※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。



※ 特記なき土間スラブの配筋は5mmワイヤメッシュ@150とする。

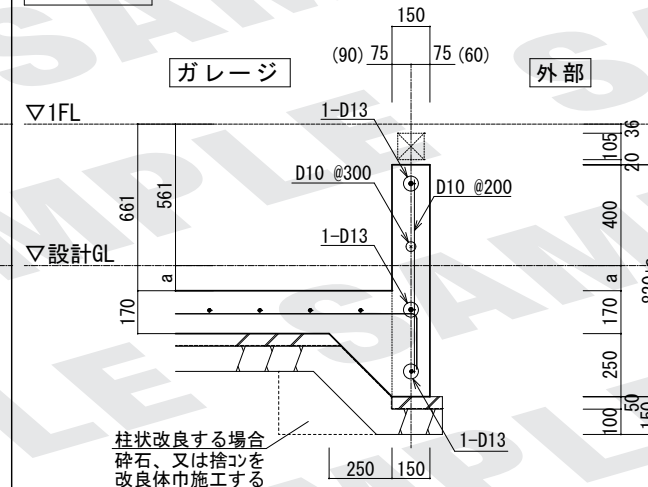
ユニット鉄筋仕様

FGu11 ガレージ立上り(土台あり)



※基礎の芯振りは伏図を参照

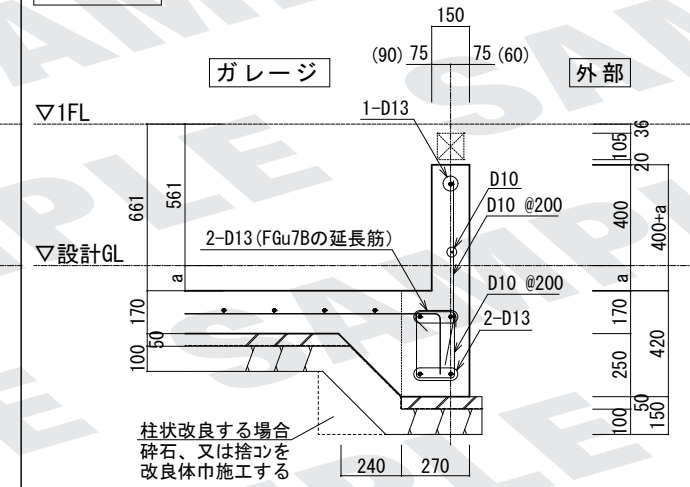
FGu11A ガレージ立上り(土台あり) FGu7定着用



直行する地中梁の主筋定着用

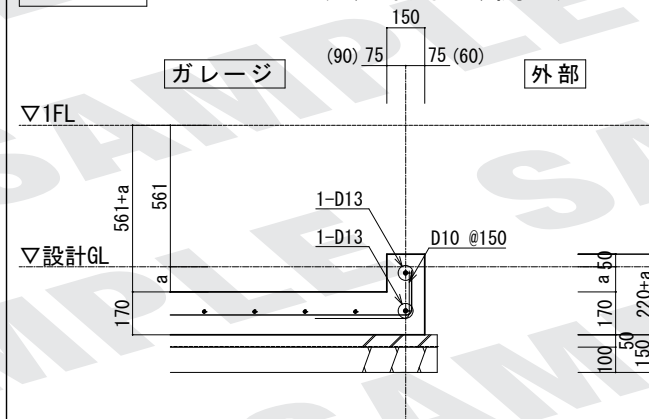
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu11B ガレージ立上り(土台あり) FGu7B延長用



※FGu7C, FGu7Dの延長として使用する場合は主筋をFGu7C, FGu7Dと同じにしてください

FGu12 ガレージ立上り(土台ない)開口用

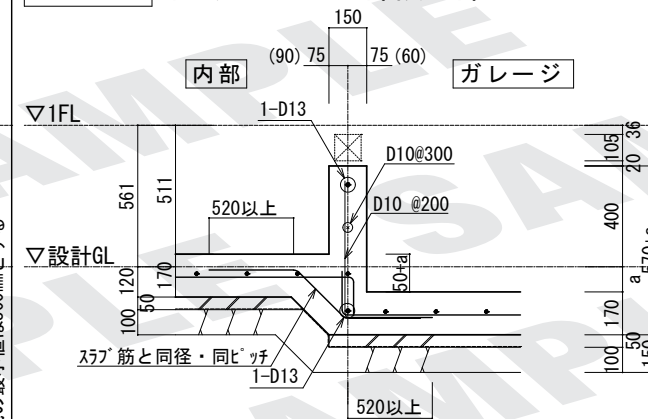


梁成の最小値は300mmとする

D10のSTの間隔は梁成1/2 かつ 250mm以下

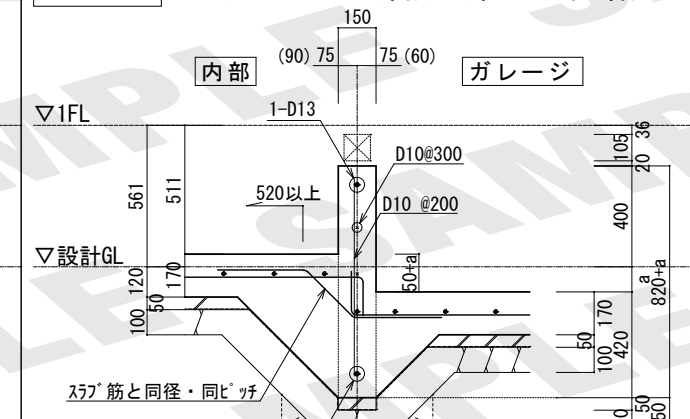
※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu13 ホーチガレージ内部段差部



※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu13A ホーチガレージ内部段差部 FGu9定着用

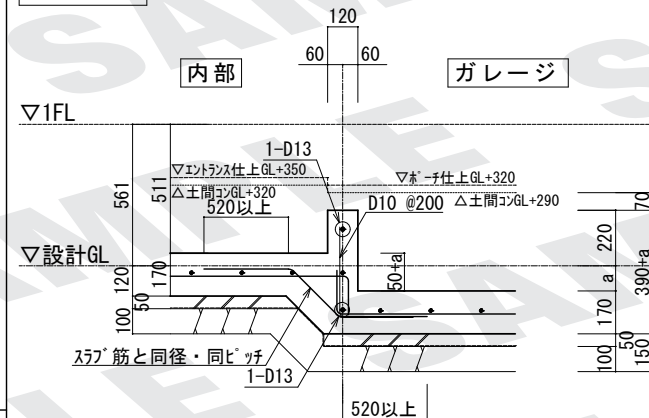


※ハチを45° 超に変更可能 ハチ部を十分に締め固めること ※ハチの省略可能

地中梁の主筋定着用

※基礎の芯振りは伏図を参照

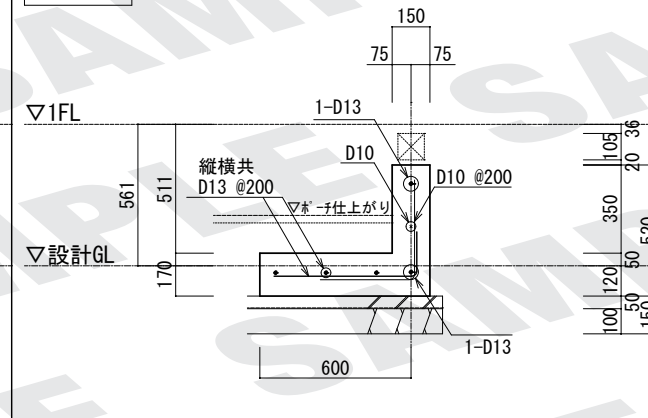
FGu15 ホーチガレージ内部段差部(玄関ドア部)



土間コン-70を基礎梁上端とする

※基礎の芯振りは伏図を参照

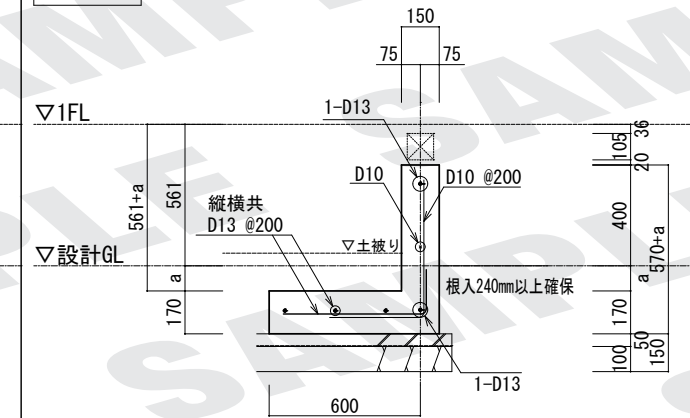
FGu22 布基礎スラブGL+50との連続性を確保



※耐力壁が載らない箇所に使用

※基礎の芯振りは伏図を参照

FGu22A 布基礎(根入れ確保)土被り想定



※建物本体から独立した柱、壁に使用
※屋根、バルコニーのみが載る場合のみ使用可能
布基礎とし根入れを設定

※基礎の芯振りは伏図を参照

検図担当	意匠設計担当	構造設計担当	年/月/日	工事名称	図面名称	図面番号
				標準基礎断面リスト	基礎断面図	S-05
			縮尺 1/30			

使用材料・強度

使用材料

コンクリート： $F_c=21 \text{ N/mm}^2$

スランプ●捨てコン、耐圧、土間 18 cm、15 cm (構造設計特記仕様参照)

●立上り18 cm

鉄筋： D10~D16:SD295 A

(評定番号:BCJ評定-L00037-04 又は 評定番号:BCJ評定-L00044-03を使う)

立上り鉄筋は全強度鉄筋交差溶接Aタイプを使う。

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

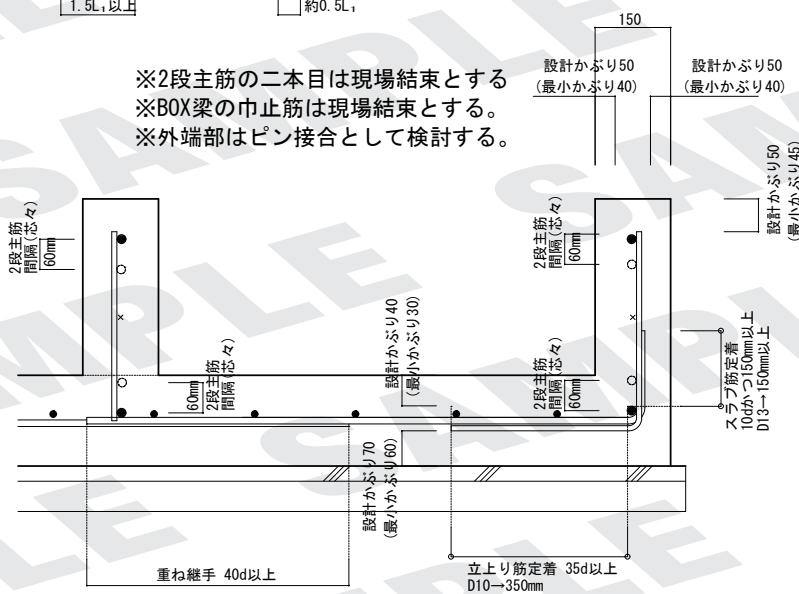
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm^2)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L_1)
		一般 (L_2)	下端筋 (L_3) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようによらず)



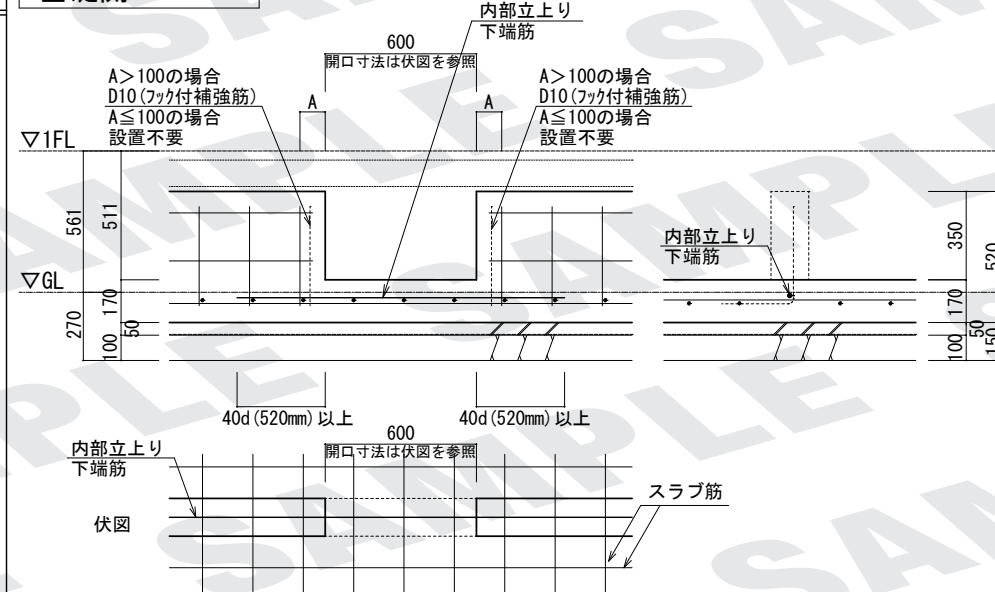
※2段主筋の二本目は現場結束とする
※BOX梁の巾止筋は現場結束とする。
※外端部はピン接合として検討する。



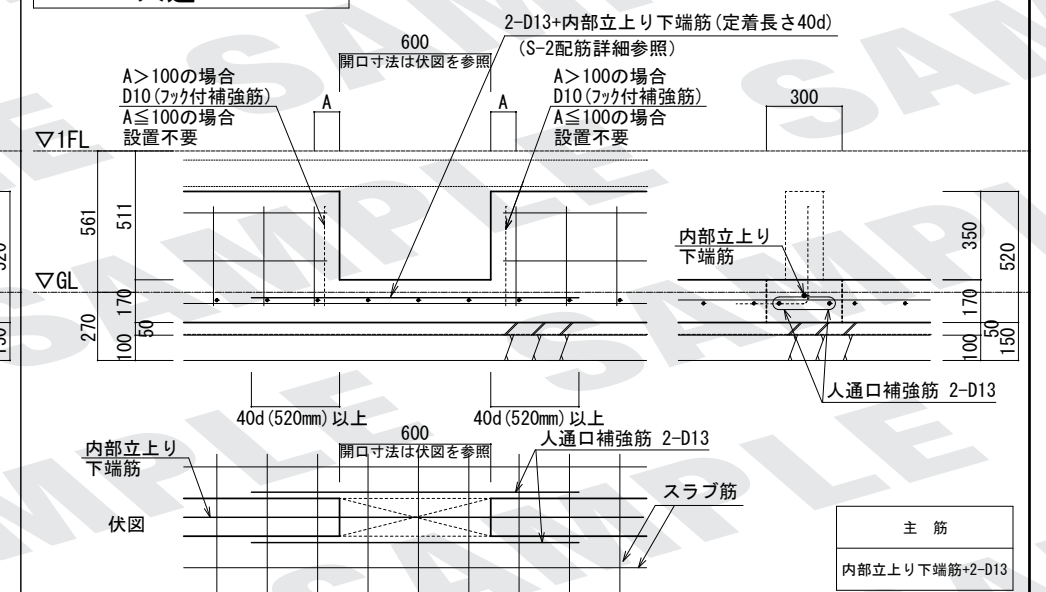
※ 特記なき土間スラブの配筋は5mmワイヤーメッシュ@150とする。

ユニット鉄筋仕様

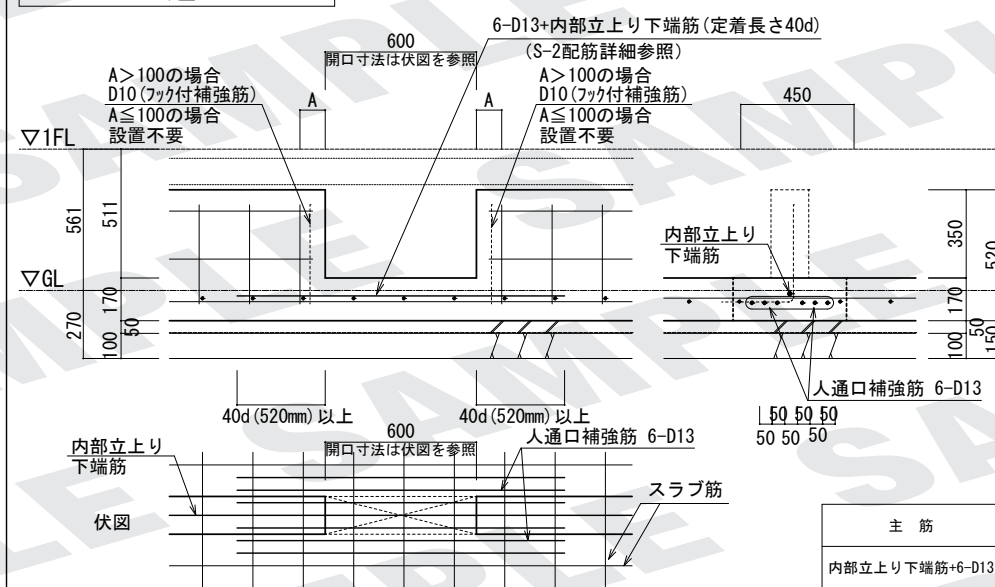
基礎開口 W=600 造作基礎部に限る(スラブ内の構造的に耐力を期待しない箇所のみ適用可)



FGu16 人通口 W=600 柱スパン 910mm以下



FGu16A 人通口 W=600 柱スパン 910mm超



検図担当	意匠設計担当	構造設計担当	年/月/日	工事名称	図面名称	図面番号
			縮尺 1/30	標準基礎断面リスト	基礎断面図	S-06